

令和4年度 学校評価について ～教職員自己評価・保護者評価の結果より～

山形大学附属特別支援学校

緑文字：学校評議員会でいただいたご意見等

1 学校評価全体として

(1) 教職員自己評価より（29名）

全35項目（1項目4点満点）の各項目の平均値は、2.6～3.3で、4項目（全体の約11%）で2.8以下（概ね1/4の教員が2以下と評価）となりました。昨年度と同様の各項目の平均値は、2.7～3.2、2.8以下の項目が5項目（全体の約14%）と、項目によって評価の値の幅は広がりましたが、課題として捉える項目は若干、少なくなりました。

改善に向けての意見として、カリキュラム・マネジメントや個に応じた指導のほか、業務改善に関するものが多く挙げられました。児童生徒の指導支援や授業改善とその他の業務の両立に苦悩している部分が見受けられます。

(2) 保護者評価より（全53名中50名）

全12項目（1項目4点満点）の各項目の平均値は、小学部：3.2～3.9、中学部：2.9～3.7、高等部：3.0～3.6となっています。

本校教育に対しての満足度（4点満点）の平均値は小学部：3.8（昨年度：3.7）、中学部：3.7（昨年度：3.6）、高等部：3.4（昨年度：3.4）と全体的に昨年度と同じ評価をいただきました。今年度はコロナ禍の中、感染対策を講じながら授業参観等を実施し、昨年度よりも本校教育についてご理解いただく場が多かったからと捉えています。来年度はさらに改善できるように邁進していきます。

2 各評価項目について

(1) 児童生徒や教員自身に関する評価（教職員・保護者共通の評価）

①「めざす子ども像」について

全12項目を通して、以下の項目が保護者の評価が低かったです。

【（ ）の数字は昨年度との比較】

番号	項 目	教員	小学部保護者	中学部保護者	高等部保護者
3	児童生徒は、自分から仕事やお手伝いをするように育っていますか。	3.0 (0.0)	3.2 (+0.1)	2.9 (+0.1)	3.0 (-0.1)

保護者は、児童生徒の自主性や他者との関係性にかかわる成長をさらに期待しているものと受け止めました。長期休業中に手伝い等に関する課題を適切に設定したり、日常的にキャリアパスポートを有効活用しながら保護者と教員が進路に関して情報交換したりするなど、学校教育目標等の具現化に向けて、保護者との関係をより強化していきます。

②「めざす教師像」について

教員の学習状況等や進路情報等に係わる項目について、昨年度よりもすべての学部
保護者の評価が高くなりました（下表参照）。【（ ）の数字は昨年度との比較】

番号	項 目	教員	小学部保護者	中学部保護者	高等部保護者
5	教員は、児童生徒一人一人に応じた指導・支援を行いましたか。	3.0 (0.0)	3.9 (+0.2)	3.6 (+0.2)	3.4 (+0.2)
9	教員は、卒業後の生活に向けての学習、情報提供を十分に行いましたか。	3.1 (0.0)	3.6 (+0.5)	3.3 (+0.2)	3.4 (+0.2)

5番について、今年度、個別の教育支援計画・指導計画等の様式を見直し、より詳細に児童生徒の学びを保護者にお伝えするように心掛けました。授業参観期間のほかにも授業の参観ができるように改善したことにより、一定の評価が得られたかと思えます。

9番について、高等部では、年2回の教育懇談のほか、進路面談を新たに2回設定しました。高等部の保護者からは高評価を得ております。また、日常的に教員と相談できる体制に心掛けたこともあり、小学部の保護者が進路指導主事と進路に関する相談を行うなど、進路に係わる情報提供の強化に努めてきました。来年度はICT機器の活用も検討したうえで、キャリア教育の視点も踏まえながら、さらなる情報提供の場を構築していきます。

学校評議員からは、本校の進路に関しての取組について、高評価を得ました。また、各種事業所との交流により力を入れていくことで、良い関係構築につながるとうのご意見もいただきました。

③「めざす学校像」について

該当する3項目の平均値は、小学部：3.9、中学部：3.4～3.6、高等部：3.2～3.5であり、全学部とも一定の評価を得ています。特に以下の項目は昨年度よりもすべての学部の保護者の評価が高くなりました（下表参照）。

【（ ）の数字は昨年度との比較】

番号	項 目	教員	小学部保護者	中学部保護者	高等部保護者
11	明るく安全な学校になっていますか。	3.1 (0.0)	3.9 (+0.1)	3.7 (+0.2)	3.6 (+0.1)

保護者からは、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止に努めた」「コロナ禍において児童生徒第一に考え活動できている」「温かい指導が有難い」など、好印象のご意見をいただきました。しかし、「児童生徒たちが本来受けるべき教育や支援が不十分」「伝えることが難しい生徒の気持ちを尊重してほしい」など、適正かつよりきめ細かい教育や支援を求める声もあります。児童生徒の安全第一を基に、より充実した教育を提供できるように努力していきたいと思えます。

④「教員自己評価に対する意見」「よりよい学校とするための改善策や意見」について（保護者：記述式）

保護者から、ウィズコロナを見据えた教育のあり方に関するご意見のほか、「学校生活に時間的な余裕がないように感じる」「授業等の情報発信のあり方」「放課後等デイサービス事業所との連携」など、多岐にわたるご意見をいただきました。コロナ禍の状況

など、安全性を担保しながら、より開かれた学校を目指していきたいと思ひます。

学校評議員からは、「児童生徒自身が学校評価できないか（本校未実施）」「長期休業中の宿題の在り方」などのご意見をいただきました。この点についても今後検討していきます。

（２）経営の重点（教員のみの評価）

経営の重点においては、下の３項目が特に不十分であると感じています。

番号	項 目	4大変良い	3よい	2不十分	1かなり不十分	評価平均
1 (1)	カリキュラム・マネジメントを踏まえた教育課程の編成に努めましたか。	1 (3%)	23 (79%)	4 (14%)	1 (3%)	2.8
2 (1)	個別の指導計画等の活用と確実な引継ぎによる一人一人の実態に応じた適切な指導ができましたか。	1 (3%)	19 (63%)	7 (33%)	2 (7%)	2.7
5 (2)	業務改善（意識改革と業務量削減）の推進と担任・分掌部業務のさらなる見直しを行うことができましたか。	0 (3%)	20 (67%)	6 (21%)	3 (10%)	2.6

不十分と感じた３項目について、令和５年度は以下のような改善案を考えています。

１（１）「カリキュラム・マネジメントを～」については、各児童生徒へのより着実な学びになるように、適切な単元期間の設定に努めながら、年間指導計画を立案・実施していくようにしていきます。

２（１）「個別の指導計画等の活用～」については、各教科の資質・能力の視点を加味したうえで、児童生徒一人一人に合った適切な目標を設定し、評価のポイントが分かりやすいように端的にまとめるようにしていきます。また、特別支援教育の基礎となる自立活動について、流れ図というものを適時見直しするようにし、指導に生かしていきます。

５（２）「業務改善（意識改革と業務量削減）の推進と～」については、働き方改革の趣旨を教職員で再確認したうえで、各業務の繁忙期を把握し、計画的に業務を遂行していきます。また、教材や各記録等について、可能な部分をデジタル化していくなど、ＩＣＴ機器を効果的に活用していきます。

学校評議員からは、経営の重点項目の個別指導の計画について、発達や能力に関する理解を踏まえた上で、教育計画・指導計画の立てるのは非常に専門的な知識や経験が必要とされるものであるが、まだ不十分であると感じている教員が多いことは向上心の表れであるという、肯定的なご意見をいただきました。

（３）基本姿勢とマネジメント（教員のみの評価）

教育界全体として、全国的に様々な課題が各種メディアに取り上げられています。附属学校である本校において、それらの課題を真摯に受け止め、解決を図ろうとしております。その課題解決にあたり、教職員内で仕事と生活の調和に関する苦悩が挙げられております（別表参照）。

番号	項 目	4大変良い	3よい	2不十分	1かなり不十分	評価平均
5	仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の実現に向け努力している。	4 (14%)	18 (62%)	5 (17%)	2 (7%)	2.8

上記の関連項目として、「3 仕事の効率化を図りながら、日々の業務に取り組んでいる。」の平均値も2.9と低い値を示しております。この項目の改善案としまして、業務の精選のほか、学部を超えて教材等の共有化が可能なのかも検討していきます。

学校評議員からは、教員のワークライフバランスはとても困難であるが、本校は先進的に取り組んでいると感じられると、肯定的なご意見をいただきました。

山形大学附属学校園教育振興計画（令和4年度から令和9年度）において、4つの教育に重点を置いて取り組んでおります。本年度の報告は以下の通りになります。

① ICT活用教育

昨年度まで、児童生徒の定員数（60人）のタブレット型端末の整備は完了いたしましたが、国の政策として、教員用のタブレット型端末の整備も令和4年7月に完了しました。

授業での活用状況としては、今年度は特に経産省「学びと社会の連携推進事業（EdTech）」の実証実験に参加しました。タブレット型端末を活用して漢字やひらがななどのドリル学習を行うほか、学部によっては英語教育の一環としてアルファベットの書き方や単語の発音を確認するなど、ICTの得意な部分を日常の学びに反映させました。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に配慮して、今年度も入学式の各種行事やふれあいタイム等で、校内でのオンラインを構築し、児童生徒の活動場所を分散しながらもリアルタイムで情報のやり取りができるようにしました。

学校評議員からは、ICT機器の活用によって、周囲とのつながり方が変化していくなど、社会的な影響も含めて教育していくことの必要性についてご意見をいただきました。児童生徒が情報モラルを自分事として考えられるようになるための手立てについて、今後検討していきます。

② インクルーシブ教育

小学部は1組（1，2年）が附属幼稚園と年3回、小2組（3，4年）、3組（5，6年）が附属小学校と年5回、交流及び共同学習を実施しました。ペアの友達と直接体育館等で遊んだり、お互いに準備した内容を発表し合ったりしました。中学部は3年ぶりに附属中学校と交流及び共同学習を実施しました。附属中学校のホールでダンスを披露しました。高等部は県立山辺高校の福祉科と年2回、交流及び共同学習を実施しました。招待カードを作成したり、オリジナルのゲームを開き合いながら実施したりしました。また、附属幼稚園とバザー交流を行い、販売活動のほか、製品の修理の様子を園児に披露したりしました。

学校評議員からは、障害者権利条約に関する国連からの勧告等も含め、社会では様々な意見がある中、インクルーシブ教育を進めている本附属学校園での取組の情報を広く発信してほしい旨のご意見をいただきました。

③ 英語教育

小学部はA L Tとのクリスマス会を基にアルファベットや英単語に触れる学習に取り組みました。中学部は学級毎に県国際交流員との交流する中で外国の文化を学んだり、県国際交流員とのやり取りの中で英会話を学んだりしました。高等部は県国際交流員とのゲームを通して必然的に英語で会話をする場面を設けたり、クリスマスに関するゲームを行いながら英単語を話したりしました。

④ S D G s を踏まえた教育

前述のI C T活用教育において、タブレット型端末を活用することでペーパーレス化を図ったり（目標15「森の豊かさを守ろう」）、インクルーシブ教育において、交流校と多様性が尊重できるような活動を組み入れたりしました（目標8「働きがいも経済成長も」目標11「住み続けられるまちづくりを」ほか）。また、高等部において、S D G s を基に総合的な探究の時間の授業を繰り広げています。

山形大学ホームページ（YU-SDGs EmpowerStation）に、実践等を掲載しております（合計5実践）。また、今年度も保護者に提示する単元題材一覧など、各種資料にS D G s の観点が反映できるようにS D G s のアイコン付加するようにしています。

3 その他（学校評議員会より）

- ・ 「計画のプランの共有」など、学校と福祉、就労先の連携強化の視点より、高等部卒後を見据えた移行支援会議等に放課後等デイサービス事業所など、より多くの福祉事業所が参加できる体制の構築を求めご意見をいただきました。本校としては、I C T機器の活用も含め、日常的に連携しやすくなる方策を検討していきます。
- ・ グループホームの利用について、高等部の保護者からご意見があったことや、保護者等が高齢になったときの対応も視野に入れていく必要性について話題として挙がりました。